

こながい支えあいの会

人口	4,437人
世帯数	1,709世帯
設立	令和5年11月12日

(令和6年12月1日現在)

地域の現状と課題

小長井町は多良岳山麓から有明海に扇状に広がる緩やかな丘陵地で、穏やかな田園風景を有し、静かな海と雄大な雲仙岳を望める風光明媚なところです。一方で、人口減少・高齢化が進み、県境ということもあり、公共交通が不便だという課題もあります。また、令和3年4月に諫早市内では唯一、過疎地域に指定されています。

同町は食料品を扱う店が減り、路線バスの便数は少なく、タクシー会社も人手不足などから撤退するなど、住民の中には買い物や通院に不便を感じている人が多くいらっしゃいました。これらの課題や、小長井町に合った生活支援や介護予防について話し合う場として、諫早市主催で平成28年から地域の誰もが参加できる「語らん場」を開催し、話し合いを重ねてきました。より多くの住民に参加してもらうために、住民主体で語らん場の周知目的のDVDを作成し、さらに、並行して住民にアンケートを実施することで、地域全体での困りごとの実態把握や住民のニーズが認識でき、住民同士が支え合うまちづくりの必要性をより一層実感しました。

そのようなことから、年をとっても住み慣れた町で住み続けられるよう、住民がお互いに支えあう仕組みを作るため、令和5年11月に「こながい支えあいの会」を立ち上げました。

<拡大図>



様々なフルーツの形をしたバス停は観光地としても人気



語らん場にてアンケートの実施について話し合う様子

現在の主な活動内容

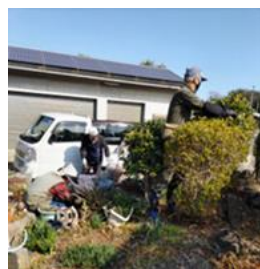
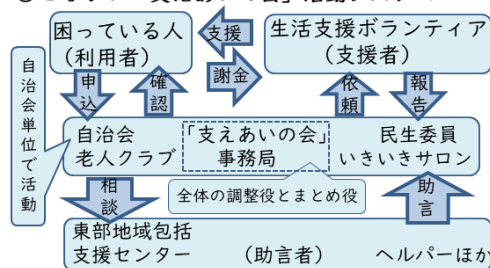
同会では、活動に共感する地域住民が「生活支援ボランティア」として登録しており、利用者から事務局又は自治会に依頼があると、生活支援ボランティアと日時や内容を調整し、活動します。主な活動（支援）内容は以下のとおりです。

【支援内容】ゴミ出し、移動支援、病院付き添い、買物代行、買物付き添い、庭の草取り、庭木の枝切り、小規模な畑耕し、電球等取替え、エアコン掃除、掃除、窓ふき、重い物の移動など

利用者の条件として、一人暮らしの高齢者もしくは二人暮らしでも体が弱って困っている人、又は、民生委員が「支援が必要」と認める人などがあり、利用にあたっては支援内容に応じた謝金を支払います。

生活支援ボランティアは、地区や支援ができる内容を事前に登録しており、令和6年11月18日現在で登録者数97名（中学生2名を含む）となっています。生活支援ボランティアへは、事務局で作成した活動の手引きを共有しており、共通認識をもって活動ができるよう工夫しています。

◎こながい「支えあいの会」活動システム



庭木の枝切りをお手伝い



チラシを作成しました

平成28年、市の事業として介護予防と生活支援の語らん場が始まりました。その後平成30年に諫早市東部地域包括支援センターから生活支援コーディネーターが配置になって、「今後ますます団塊世代の高齢化が進み、若い人が減ってくる。我が事としてこの時代、背景を捉えて頂く必要がある」と話を聞いたことがきっかけでした。

私が自治会長をやっていた時に、一人暮らしの女性がいて、いろいろな支援を必要としていたのですが、ヘルパーさんが不足していて、私が台風時の備えや電球の交換等を手伝っていたことがあります。そのような経験があったこともあり、地域には支援を求めている人たちがいて、住民同士が支え合う仕組み、それも持続可能な仕組みを作る必要があると思いました。

住民誰もが参加できる「語らん場」において、当初は「介護予防」と「生活支援」の2つを柱に話し合っていたのですが、協議をかさねるにつけ、



こながい支えあいの会
会長
徳永 秋男さん

より自分たちに必要なのは生活支援の方だと気づき、そちらに重きを置くようになりました。

語らん場の取組を住民に浸透させるためDVDを作ったかどうかとの意見がありました。そこでDVD作成委員会を立ち上げ、シナリオ作成、個人のスマホで撮影するなど、慣れない作業もありましたが、中学生も巻き込み、楽しみながら、手作りで150枚ほど作成し各所に配布しました。

移動支援（車での送迎）を希望する人が多い一方で、法律や安全面、費用等での課題が多くありましたが、運輸局や市役所とのやり取りを丁寧に行うことで解決することができ、令和6年11月には、移動支援の実証実験事業の一環として、「支えあい号」と名付けた車両が2台納車されました。

以上のような取組みから、今後ますます利用者とボランティアの登録数が増えることを期待しています。

行政からの支援



諫早市から、ボランティアが行う「支援が必要な高齢者などの買い物や病院への送迎」に使用するための車両の購入費などについて助成していただきました。（地域公共交通再編実証プロジェクト事業）

【助成内容】

- ①軽自動車2台の購入費 ②車両本体へのラッピング費用 ③チラシ印刷費
- ④任意保険料 ⑤燃料費 ⑥事務経費

※車両の維持管理にかかる経費については、次年度以降も継続して支援が行われます。

今後の課題・展望

会が発足して1年経ちますが、依頼数は71件、利用者の人数としては十数名です。高齢化が進む中で、利用者は今後ますます増えていくと思うので、ボランティアの人数を増やすなど体制を強化する必要があると感じています。また、持続可能な会にするために代々、役員を引き継いでいくことも大切だと思います。

取材を経て

生活支援コーディネーターが小長井地域の現状と問題点、課題を自分事として考える必要性を説明し、それに共感した住民が、アドバイスをもらいながら、自分たちの実態に合う組織づくりを行っています。

持続可能な活動となるよう、誰か一人がリーダーになるのではなく、皆で取り組んでこられたことに感銘を受けました。

「住みなれた地元にずっと住み続けられるように」との住民の願いが込められたこの組織が、今後、小長井町を支え続けると感じました。

まとめ

- ①生活支援コーディネーターによる問題提起と継続的なバックアップ
- ②行政と連絡を密にし、法律面や安全面での問題を解決
- ③手引きや内規等を整備し、関わる人たちが共通認識を持ち持続可能な活動を実施
- ④誰か一人がリーダーになるのではなく、持続可能な活動となるよう皆で取り組む